

蓮華温泉スキーツアー

(第1日 梅池スキー場～白馬乗鞍岳～蓮華温泉)

2011年5月2日

メンバー： S. Tさん、T. T (記)

5月連休の山スキーは、昨年まで3年にわたり東北ツアーが続いていたが、今年は蓮華温泉をベースに白馬山系の山でスキーと温泉を楽しむことになった。

8時すぎ、オールマウンテンクラブ初参加のS. Tさんとともに梅池スキー場ゴンドラに乗り、雪がなくなったゲレンデを眼下に眺めながら梅の森駅へ上がる。

S. Tさんは、私が15年ほど前にオールマウンテンで基礎スキーを始めた頃に大阪府スキー連盟のスキー講習会で指導員として指導していただいて以来のお付き合いであり、これまでもっぱらゲレンデスキーで私がお世話になってきたが、最近、S. Tさんが高校時代は山岳部に所属していて、昨年あたりから山歩きを再開したと聞き、そうであれば山スキーの面白さを共有できるに違いないと思い、今回のツアーにお誘いしたのであった。

梅の森駅にてゴンドラからロープウェーに乗り換えるべく、スキーをはいてロープウェー乗り場へ。ところが、乗り場の階段を上がっていき、乗客の列に並ぼうとすると、強風のためロープウェーが運行を見合わせていることが判明。係員に見通しを尋ねると、運行までに1時間以上は要するのではないかとのこと。ロープウェー終点まで歩いた場合のコースタイムは1時間程度であり、判断が悩ましい。とりあえずスキーにシールを装着しながら様子を見ることにするが、風がやみそうな気配はなく、乗り場に並んでいた人々も、見切りをつけて歩き出すパーティーが相次ぐ。シールを装着し終わると我々も踏ん切りをつけ、スキーをはいて歩き始めた(9:15)。

(梅池自然園から見た白馬乗鞍岳)



10時10分、ロープウェー終点の梅池自然園到着。小休止し、歩き出した頃、ロープウェーが動き出したのが目に入ったが、見なかったことにする。

天狗原への急な登りで、今回シール歩行を初めて経験するS. Tさんが苦戦。シール歩行に慣れないだけでなく、スキ

一板がパウダー向きのファットスキーであるのに対し、シールは私が昔使っていたノーマル板用のお古であったのも悪かったかもしれない。

11時50分、天狗原のハイマツ帯の岩場の陰で強風をしのぎながら休憩。昼食をとりながらS. Tさんを待つ。30分ほどしてS. Tさん到着。

S. Tさんの休憩後、白馬乗鞍岳を目指して出発（12：40）。連休の合間の平日ということもあってか、もともとそれほど人が多くなかったが、白馬乗鞍岳に向かう人はさらに少なくなる。

13時35分、白馬乗鞍岳ピークに到着。ケルンにて写真を撮った後、白馬大池山荘へ向かう。白馬大池は一面雪に覆われており、歩行跡のようなものも一筋見られたが、さすがにその上を歩く気にはなれず、池の北側を回り込んで進み、雪に埋もれた白馬大池山荘前を通過（14：40）。緩やかな登りを過ぎ、下りになり始めたところでシールを外し、滑降準備。



(疎林の間を滑り出すS. Tさん)



白馬岳をバックに写真を撮り合って、いざ滑り出す（15：10）。最初は、疎林の間を縫いつつ、天狗の庭への尾根を外さないよう、所々で現在地を確認しながら慎重に滑り降りる。そのため、決して爽快な滑りという状況ではないが、それでもS. Tさんは最初の一滑りから既に、ゲレンデとは異なる自然の中でのスキーの醍醐味に魅せられたようで、「自然と戯れるというのはこういうことなんですね」と喜びに浸っている。

(天狗の庭付近から蓮華温泉を見下ろす)

天狗の庭付近で眼下に蓮華温泉の建物が確認できると、あとはルートを外す不安もなくなるとともに、滑りごたえのある快適斜面が続く。いよいよ、SAJ指導員でテクニカルプライズ保持者でもあるS. Tさんの見せ場である。



(S. Tさんのカッコイイ滑り)



互いに写真を撮り合いつつ、斜面をしっかりと味わって滑り降り、宿泊場所の蓮華温泉に到着した（15：50）。

